

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100929		
法人名	有限会社 大樹		
事業所名	グループホーム 大樹	ユニット名	1号館
所在地	〒311-3106 茨城県東茨城郡茨城町越安1993		
自己評価作成日	平成25年1月18日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報公表支援センターのホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0873100929-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年3月27日	評価確定日	平成25年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・自然豊かな環境の中でその人らしさを大切にできているかと、職員間で日常的に話し合い、共有出来ていると感じている。
- ・理念に合わない対応があった場合は職員間でお互い注意出来る環境が目標である。
- ・御家族、友人、親戚等の面会が頻繁にあり、利用者への想いを日々感じて介護に従事出来る事。
- ・代表者が無農薬野菜や米等を栽培し、食卓に提供し食の安全に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然豊かな環境にあり、木造平屋造りの温かみのある佇まいとなっている。
居間は南向きになっており、大きな窓から光が入るため明るく、職員は加湿機を備えたり温度調節をして利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。
利用者は居間や居室からデッキに出て周囲に広がる田畑や遠くに筑波山を眺めながら、手作りの木製ベンチに座ってお茶や外気浴を楽しんでいる。
敷地内に梅や柿、林檎、さくらんぼ、杏、無花果、かりん、夏みかんなどの果樹や花木が植栽されており、利用者は季節感を味わいながら過ごしている。
職員は毎日の献立のほか、敬老会や誕生会などの献立を利用者と一緒に作成するとともに、代表者が栽培している無農薬野菜や米、自家菜園で栽培している野菜を利用し、新鮮で安心な食材を取り入れ、利用者の食事が豊かなものとなるよう支援している。
長期間務めている職員が多いため利用者との係わりが深く、「お一人お一人の人格を尊重し、安心と信頼の介護で、地域に密着した生活をめざします」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の基、信頼と安心の支援に努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護をして行く上で理念を基本とした介護が最も大切であり理念にすぐわない対応があった場合は職員間で注意し、理念を再確認した上で質の向上に取り組んでいる	「お一人、お一人の人格を尊重し、安心と信頼の介護で、地域に密着した生活を目指します」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。 理念を玄関や事務室、居間など目に付き易い場所に掲示して全職員で共有するとともに、意識付けをしながら実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの近辺は地域の方の散歩コースになっていることもあり、地域の方とは普段から挨拶を交わしたり菊の花や野菜を頂いたりしている	利用者は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、近隣住民から花や野菜のお裾分けがあるなど、日常的に交流している。 2ヶ月に1回、理・美容師がボランティアで来訪しているほか、事業所の敬老会にフラダンスのボランティアが訪れたり、一般家庭と同じ様に毎週ヤクルトの訪問販売員が訪れ、利用者はヨーグルトや飲み物を選びながら購入し、販売員と会話を交している 運営推進会議で得た情報を基に、利用者は職員と一緒に地域の産業祭などに出かけている。 管理者は地域のコミュニティセンターで認知症について講演をしたり、電話で近隣住民からの相談を受けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域より認知症についての講演の依頼を受け理解をして頂いた高齢者が多い地域でもあり相談も受ける事がある			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長、民生員、老人会長、家族の代表、町福祉課の方より参加を頂き、ホームの取り組み内容を報告し、意見を参考に進めている	運営推進会議は町職員や区長、高齢者クラブ会長、民生委員を委員として開催しているが、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。 会議では事業所の状況や行事などを報告するほか、町担当者から時節の話題や介護マークなどの情報を得ている。 委員から町民祭りの情報を得て利用者が見に行けるよう支援するなど、会議で得た情報をサービスの向上に活かすとともに、委員からの質問に答え、事業所への理解が得られるよう取り組んでいる。 今まで会議に参加が得られていない家族等や地域包括支援センターの職員に参加を依頼し、より多くの意見や情報が得られるまでには至っていない。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催することが望まれる。 会議に家族等の代表や地域包括支援センター職員の参加を得、より多くの意見や情報を汲みあげるとともに、外部評価で明らかになった課題などを話し合い、より充実した内容となるよう取り組むことを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の手続きや事業推進にあたり、町の担当者と電話や往来する等、連携を取れる体制を作り質の向上に取り組んでいる	町担当者が運営推進会議に出席している。管理者は町役場に出向いたり、ケアマネジャー連絡会議や地域密着型介護サービス連絡協議会に参加し、町担当者に事業所の実情を伝えるとともに、情報交換をして協力関係を築くよう努めている。管理者は町主催の講演会で、認知症についての講演を引き受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は行わない」また身体拘束ゼロを目指し全ての職員が認識し介護支援にあたっている なお玄関に身体拘束排除宣言書を作成し表示している また日中は玄関等にも鍵を掛けることはせず見守りをしながら、当たり前の自由な暮らしが出来るよう支援している	「身体拘束排除宣言書」を作成するとともに、玄関に掲示して職員で共有を図り、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 身体拘束をしないケアのマニュアルを作成しているが、内部研修を実施したり、同意書や経過観察記録、検討記録等の書類を整備するまでには至っていない。	全職員が身体拘束の内容とその弊害を正しく認識するために研修会を実施するとともに、同意書や経過観察記録、検討記録等の書類を整備することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に基づき研修やセミナー等に参加し伝達講習にて全職員が理解し虐待が見過ごされないように防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し必要な場合には関係者に相談できる体制を取っている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し事業所で出来る事と出来ない事を明確に説明ご家族からの疑問点を引き出し急変時または重度化について説明し同意を得るようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満や苦情等は日頃から対話を重ね聞き出せるよう努めている またご家族にも苦情、要望等が気軽に出せるよう意見箱を設置している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 職員は利用者には日常の支援の中で、家族等には電話や面会時に話を聴く機会を設け、出た意見等を管理者に伝えたり、職員で話し合い、直ぐに対処できることについては迅速に対応している。 家族等にアンケートを実施して広く意見や苦情を汲みあげるまでには至っていない。	意見などを出し難い家族等の心情に配慮し、意見や要望を出し易いよう無記名のアンケートを実施し、出た意見等を運営に反映させるように取り組むことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを取り、要望や意見等聞くよう心がけているが不満や苦情は言い難い部分もあり把握しきれてないこともあると思う 利用者の受け入れや職員間の交替等の話し合いは出来ている	管理者は常に話し易い職場の環境づくりに努めながら職員の話聴いているほか、日々の申し送り時や昼食時に意見や要望、提案を出せる機会を設けている。 職員は「勤務体制に関する意見」や「外出したがる利用者への外出時間増加に関する意見」、「利用者がつまづき易い場所などの環境整備に関する意見」などを申し送りノートに記入しており、管理者は職員から出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も現場に入り職員一人ひとりの日々の努力を把握しており資格取得の支援に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が段階に応じたセミナーや研修を受ける機会を確保するよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会、ケアマネージャー協会に加入し会合等で良い点、改善点等話し合う機会を作っている また同業者を訪問し良い点を取り入れたり相互間で改善点など話し合っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今現在何が不安なのかご本人の思いと希望を真剣に受け止め、安心して日常生活を送れるよう個別にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち求めているものの理解に努め、家族の思いを受け止める努力をし、事業所としてどのような対応が出来るか話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として本人や家族の思い、状況等を確認し出来る限りの対応に努めている また出来ないことは事業所だけで抱え込まず必要に応じて他のサービス機関につなげ早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩でもあり日常生活の中で学ぶことも多々あり、共に支えあうという思いの中で信頼関係作りに取り組んでいる		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族が利用者への面会のみで終わるのではなく職員との話し合いを短時間でも持ち、職員の思い等きめ細かく伝えることで共に支援していくという関係が出来ていると思う		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの方がいつでも気軽に来訪出来るよう事業所内での雰囲気作りに努め、面会時にはお茶を飲みながら楽しく過ごせる時間を支援している	利用者の親戚や近所だった人、友人の来訪があり、職員は気軽に来訪ができるような雰囲気づくりを心がけるとともに、お茶の接待をして利用者が来訪者と一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援している。 利用者が墓参りや馴染みの店、美容室への外出を希望する場合は、家族等の協力を得たり職員が付き添い、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。 家族等の面会が途切れた時や利用者が電話をかけたい時には、いつでも電話ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を工夫し午後は職員が間に入りコミュニケーションを図る努力をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても利用者のその後の経過などを聞いたり、相談にも応じ関係性を断ち切ることなく大切にしている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の一人ひとりの人格を尊重し、現状を把握して援助出来るよう努めている	職員は利用者との日々の係わりの中で把握した利用者の訴えや暮らしぶりを個別に記録したり、申し送りノートに記録して全職員で話し合っって共有し、利用者の意向にそった支援に努めている。 思いを表わせない利用者の場合は家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲み取るよう努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴等をご本人、ご家族より聞き、職員が把握し本人のこれまでの馴染みの暮らし方が継続出来るよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る事出来ないことを把握し細かい点に配慮しながら、その時の利用者の状態や気持ちを理解して支援に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らせるようご本人や、ご家族の要望を取り入れて、介護計画作成にあたっている また実現可能な計画になるよう担当者会議でモニタリングや課題となる項目を話し合っている	介護計画は利用者や家族等の意向や要望を取り入れて計画作成担当者を中心に職員で話し合い、短期目標は6ヶ月、長期目標は1年と定めて作成し、家族等の来訪時に説明して同意を得ている。 3ヶ月毎にモニタリングを行うとともに、設定期間毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の利用者の訴えや暮らしぶりを個別に記録し、食事量・水分・排泄状況をチェックし全職員が把握できるようにしている また申し送りノート等で個別の情報共有を徹底している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきなり入居に不安な利用者にはしばらくの間、ホームと在宅の両方の生活を提案している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームは地域の方の畑に囲まれており野菜や花を頂いたりして交流している 美容師のボランティアの受け入れにて地域の方との協働ができています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を大切にし、利用者や家族等の希望するかかりつけ医への受診の支援をしている また月1回協力医療機関の医師による往診がある	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としている。 受診は基本的には職員が付き添い、受診記録に記載して全職員で共有している。 月1回協力医療機関の医師による訪問診療があるほか、随時往診依頼をするとともに、毎週水曜日に協力歯科医の訪問診療があり、義歯の調整や口腔ケアの指導を受けるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はしていない為知り合いの看護職員に相談し助言して頂いて対応している また医療機関とも連携を取っている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご本人の援助方法に関する情報等を医療機関に提出 ご家族とも情報交換しながら職員が頻繁に見舞い、その際ご本人の状態を医師・看護師から得ている 退院後スムーズにホームにて生活出来るよう情報提供書を頂いている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で出来る事出来ないことを明確にし、利用者・家族・職員と情報を共有し、月1回の協力医療機関の往診の際に医師に相談をしながら支援に取り組んでいる	「重度化や終末期に向けた指針」や重度化した場合の対応マニュアルを作成し、事業所でできることとできないことを利用者や家族等に説明している。 利用者や家族等から看取りの希望がある場合は、医療連携体制を整えて看取りができるように取り組んでおり、今までに看取りを4例経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは備えており応急手当の訓練は一部の職員は受けているが全職員には至っていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しており、消火器訓練も利用者と一緒に実施 夜間を想定した訓練も実施している	年2回消防署の立会いのもと夜間想定を含めた避難訓練を実施するとともに、近隣住民との間に災害に遭った場合の避難場所として協力してもらえる体制ができている。 訓練の結果は記録しているが、課題や反省点を記録して話し合ったり、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 緊急連絡網を作成しているが、掲示するまでには至っていない。 災害の発生に備えて食料や飲料水、毛布、タオル、おむつ、懐中電灯などを備蓄している。	避難訓練で明らかになった課題や反省点を話し合い、記録に残して次回の訓練に活かすことが望まれる。 避難訓練への近隣住民の参加については、運営推進会議に地域住民が参加しており、協力の要請をしているので実現することを期待する。 緊急連絡網は事務室など、目に付き易い場所に掲示することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した介護を心がけ支援している 特に排泄への声かけには十分に配慮しプライドを傷付けないように努めている	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管し、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や嗜好の把握に努め日常生活の中で表出出来るよう取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を押し付けることの無いよう配慮し、起床や就寝など本人のペースに合わせた支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理・美容師のボランティアの協力を得ているが、美容室へ出かける方もお送り迎の支援をしている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力を活かし利用者と職員が出来る限り準備や後片付けを一緒に行っている また夏には庭に栽培している野菜を収穫し調理して楽しんでいる	職員は毎日の献立や敬老会、誕生会など行事食の献立を利用者の希望を取り入れながら、利用者と一緒に作成している。 利用者の苦手なものには代替品を準備したり、一人ひとりの状態に応じて刻み食やお粥を提供している。 代表者が栽培している無農薬野菜や米、自家菜園で栽培している野菜を利用するなど、新鮮で安心な食材を取り入れている。 利用者と職員で一緒に団子を作ったり、ホットプレートでケーキを焼くなど、食事に変化に富んだ楽しみなものとなるよう支援している。 利用者は能力に応じて野菜の下ごしらえや下膳、食器洗い、食器拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を個別に記録している また個別の食事形態を把握し、それに応じて提供している 苦手な献立等は他の献立に変えて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に義歯と自分の歯のケア 義歯には消毒、殺菌剤を使用 またスポンジで口腔ケアを実施している 週1回の訪問歯科による義歯の調整や清潔保持の為に口腔ケアをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて個別の排泄パターンを把握 声かけ誘導を促し可能な限りトイレでの排泄を行っている	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら声かけ誘導し、日中はおむつを使用しない支援に取り組んでいる。 夜間はポータブルトイレを使用するなど、可能な限りトイレで排泄ができるように努め、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を朝昼夜の食事の際と10時15時のおやつとの時間と摂取量を把握し一人ひとりの好む飲料や野菜の多い食事にて対応し自然排便につながるよう努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決まっているが利用者の状態によりシャワー浴や足浴、清拭等にて対応している。個人の希望や状態により、入浴が出来なかった利用者は1号館、2号館とお互いの入浴日に入浴出来るようにしている	入浴は週2回午前中と決まっているが、利用者の状態によりシャワー浴や足浴、清拭で対応したり、1号館と2号館のそれぞれの入浴日にお互いに利用ができるよう支援している。 浴室は壁や床面、浴槽ともに明るく温かみを感じられる色で、シャワー椅子を備えて安全に配慮しながらゆったりと寛いだ気分で入浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら入浴に誘ったり、声かけの工夫をし、無理無く入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムを把握し安心して休息、睡眠できるように支援している 冬は湯たんぽを使用し暖かく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬のファイルを作成し職員が内容を把握できるようにしている 服薬時には本人に手渡し服用を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ、食事の後片付けなど日課としている利用者の力を活かした役割で生活に張りがもてるよう支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	利用者の希望により散歩、買い 物など戸外に出かける支援をし ている また利用者の希望で墓参りなど 家族の協力を得ながら支援して いる	天気の良い日は利用者の希望や体調を考慮しな がら近所に散歩に出かけたり、買い物に出かけら れるよう支援しているほか、利用者の希望にそっ てドライブや外出に出かけ、季節を味わったり気 分転換が図れるよう支援している。 季節ごとに近隣の植物園や公園に手作り弁当を 持って花見に出かけられるよう支援している。 体調により外出ができない利用者でも、デッキ でお茶を飲みながら外気浴ができるよう支援して いる。 家族等の協力により墓参りに出かけたり、病院 の受診の帰りに外出に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切 さを理解しており、一人ひとりの希 望や力に応じて、お金を所持したり使 えるように支援している	週1回ヤクルトの訪問販売があり、 自分で買うことを楽しみにしている 利用者がある また管理が困難な 利用者には家族より預かり個別に使 用を記入し報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話を したり、手紙のやり取りができるよう に支援をしている	本人が掛けたい時はいつでも掛けら れるよう対応している 面会が途切れた場合でも家族との電 話でのやり取りで安心して頂けるよ う支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	居間は南向きになっており、冬 は暖かく利用者にとってソ ファーは居心地の良い場所なっ ている 周りは地域の方の菊畑になっ ており、夏には花を眺めたり頂い た花を飾るなど、季節を感じな がら過ごしている 敷地内には梅・柿・リンゴ・さ くらんぼ・あんず・いちじくな どの果実を収穫し季節を感じ楽 しんでいる	居間は南向きになっており、大きな窓から光が入 るため明るく、職員は加湿器を設置したり、温度調 節をして利用者が居心地よく過ごせるよう配慮して いる。 居間や居室からデッキに出られるように設計され ており、利用者は事業所の周囲に広々と広がる田畑 や遠くに筑波山を眺めながら手作りの木製ベンチで お茶や外気浴を楽しんでいる。 居間には季節の花を飾ったり、ソファを配置し て寛いで過ごせるよう工夫している。 居間から続く和室は会議に利用したり、利用者や 家族等の休憩場所として活用しているほか、雛人形 などを飾り、季節が感じられる空間となっている。 敷地内に梅や柿、林檎、さくらんぼ、杏、無花 果、かりん、夏みかんなどの果樹や花木を植栽し、 利用者が季節感を味わいながら穏やかな日々を過 せるよう取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置き、くつろげるよう配置している 食堂脇には小上がりがあり思い思いにくつろげるよう工夫している デッキには手作りのベンチを置き暖かい日には日光浴をしながらくつろげるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みの家具や仏壇を置き、お供え物など大切にしている利用者の支援に努めている	利用者は居室にタンスやテレビ、椅子、仏壇、寝具類などの使い慣れた物品を持ち込み、家族の写真や植木鉢、生花を飾るとともに、時計やカレンダー、温度計などを掛け、思い思いに居心地のよい暮らしをしている。 職員は目の不自由な利用者のために入り口に木彫りのプレートを下げ、手で触れて自分の部屋が確認できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・浴室・トイレなどにプレートを掛け、混乱の無いよう工夫している また目の不自由な利用者には本人の居室入口に手で触って確認出来る物を掛けるなど工夫している		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホーム大樹

作成日 平成25年 6月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	2ヶ月に1回開催するまでに至っていない	2ヶ月に1回開催する	地域の区長、民生員、老人会長、家族の代表、町福祉課の方より多くの意見や情報を得られるようにする	12ヶ月
2	6	すでに周知徹底する為に玄関、リビングに掲示されているが職員の全員が読んでいるか確認する機会がなかった。各メンバーが読んだかを確認する。	2ヶ月に1回の会議に全員が参加するようにする	2ヶ月に1回の職員会議で社内研修の時間をとり周知徹底を計ると共に早期発見に努める	12ヶ月
3	10	家族からの意見や苦情が汲み上げられていない	3ヶ月に1回アンケートを実施する。利用者の不満や苦情等は日頃から対話を重ね聞き出せるように努める。	3ヶ月に1回家族へアンケートを実施し意見や苦情をくみ上げる。家族等には電話や面会時に話を聞くようにする。	12ヶ月
4	35	自分で避難出来る人が極端に少ない。車椅子の人が5割以上いるのが問題。近隣の人と接触を多く持ち協力してもらおう。	短い時間で避難出来るようになる	避難場所のマップを大きく分かるように掲示する。今より多くの地域住民の参加を促してみる。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。